

まなびすと通信

2014年9月1日 発行 第44号

事務局 〒362-0071 上尾市井戸木2-29-6 土井英明 TEL048-786-0058

目次

- P1 上尾市の花火大会
- P2 事業説明会・研修会開催
- P3 まなびすと指導者バンク登録者
- P4 煎茶講座（ミニ講座）
- P5 異文化を学ぶ（中国を旅して）
- P6 まなびすと市民講座情報
- P7 まなびすと市民講座情報
- P8 小説「赤毛のアン」発表100

上尾市の花火大会



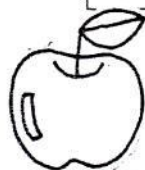
上尾市まなびすと指導者バンク活動推進会議（サポートまなびすと上尾）

1 事業説明会・研修会開催のお知らせ



1 日 時	平成26年9月17日(水) ・ 9時30分—14時30分
2 場 所	ニッサンUD社員クラブ 2階 大会議室
3 受 付	9時30分—10時00分
4 内 容	<p>(1) 事業説明 10時00分—11時00分 (休憩10分)</p> <p>(2) 講話会 ① 11時10分—12時00分 ☆演 題 「上尾市の歴史と文化財」 講師：生涯学習課 高橋 貴博氏</p> <p>(3) 昼 食 <移動：1階 広間> 1階 広間 : 12時00分—12時50分 <移動：2階 大会議室></p> <p>(4) 講話会 ② 13時00分—14時30分 ☆演 題 「病気知らずの楽しい人生」 講師：まなびすと会員 千木良 素之氏 ○ 母親介護 (H26年8月現在101歳)を通して、肌で感じた国の「医療・ 介護・長寿」など解りやすく解説。 ○ 著書「有名人は短命だった」—死因から学ぶ長寿の秘訣—</p>
5 会 費	1,000円(昼食代・飲み物・)
6 申 込	締切り：(平成26年9月5日・土) までにはがきを返送ください

担当： 総務委員会 大成副会長・研修会担当 芳埜副会長



2 まなびすと関連事業について

NO	月 日	曜日	事 業 内 容
1	9/ 1	月	広報9月号発行
2	2	火	教育委員会指導課主催「校長研修会」東松山・ 講師 土井英明氏
3	5	金	正副会長会議 (市民活動支援センター)
4	6	土	上尾市民塾 芳埜理鳳氏「暮らしの中の生け花」(担当：土井・高木・藤崎)
5	13	土	第3回 まなびすと市民講座(平方東小会場)
6	17	水	まなびすと事業説明会・研修会①・研修会②、ニッサンUD社員クラブ
7	27	土	第3回 まなびすと市民講座(芝川小・富士見小会場)
8	30	火	まなびすと講座担当者会議 (市民活動支援センター)
9	30	火	上尾市人権教育推進協議会(栃木県)世話人：土井
10	10/ 4	土	上尾市民塾 大貫政明氏「変わりゆく日本語」(担当：土井・森田・鈴木)

3 会 員 情 報

NO	入 会	氏 名	指 導 項 目
71	入 会 平成26年6月	玉越 敬彦	漢字
72	入 会 " 26年8月	池谷 愛子	音楽・オカリナ



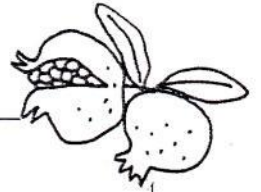
まなびすと指導者バンク登録者ピーアール会

上尾市教育委員会
生涯学習課 主催

まなびすと指導者バンクの活性化を図り、上尾市民の生涯学習推進に寄与することを目的に、登録者ピーアール会が生涯学習課主催のもとに、4回開催されました。市内公民館長さんや関係機関の担当者が参加のもと、まなびすと会員34人が、各自の講座内容を紹介ピーアールしました。

1 平成25年 9月24日(火) 平方公民館 9人参加

1	有松 則子	和の小物作り	6	鈴木 せつ	文化琴
2	上原 愛子	社交ダンス	7	根本 京子	水墨画
3	榎本紀佳美	スクラップブック	8	町田 佑子	絵手紙
4	小島 光江	絵手紙	9	森田 秀作	薬草ガーデン
5	鹿貫紀美子	茶道(表千家)	計	9人	



2 平成25年11月26日(火) 原市公民館 11人参加

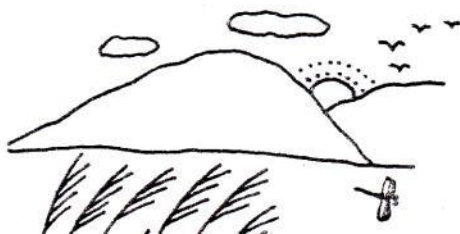
1	池中万吏江	新清掃	7	富山美枝子	生け花
2	伊藤秀三郎	地学	8	原 日出雄	教育
3	猪熊 智彦	マジック	9	深澤 國昭	将棋
4	勝野 憲明	英語	10	藤崎美津代	茶道
5	瀬尾香代子	カラーコーディネイト	11	大成 達夫	話し方
6	土井 英明	人権問題	計	11人	

3 平成26年 1月28日(火) 大石公民館 10人参加

1	浅田 信子	料理	7	野原 初美	マジック
2	飯野 文江	写真	8	森田千枝子	傾聴体験・切り紙
3	大野 恵子	日本舞踊(NOSS)	9	山中 久恵	歌唱指導
4	木本加奈子	茶道	10	芳埜 立夫	華道
5	高橋 五郎	ハーモニカ	計	10人	
6	千木良素之	健康づくり			

4 平成26年 7月 3日(木) 上尾公民館 4人参加

1	岡部 登	歴史	4	佐々木育代	健康長寿
2	丸地 三郎	古代史	計	4人	
3	久野 清子	華道・着付け			



煎茶講座 (ミニ講座)

方円流講師 藤崎 美津代

日頃、皆さんに親しまれている煎茶には、歴史と共に頂き方や作法があることをご存じでしょうか、依り、美味しく常用して頂きたく、煎茶講座を企画しました。

☆煎茶道の歴史：煎茶道は中国明朝の文人墨客が作りだした芸術運動の一つです。香り高い煎茶を味わいつつ、詩を吟じ絵を描く風流三味の境地と、老荘思想の一体化が自然に帰し、自由闊達な芸術として発達したものとされています。この喫茶風習の始まりは諸説ありますが一般的には、江戸初期隠元禅師により、我が国にもたらされたものとされています。禅師は京都宇治に黄檗山万福寺を建立（開山1661年）し黄檗宗の開祖となられた方です。

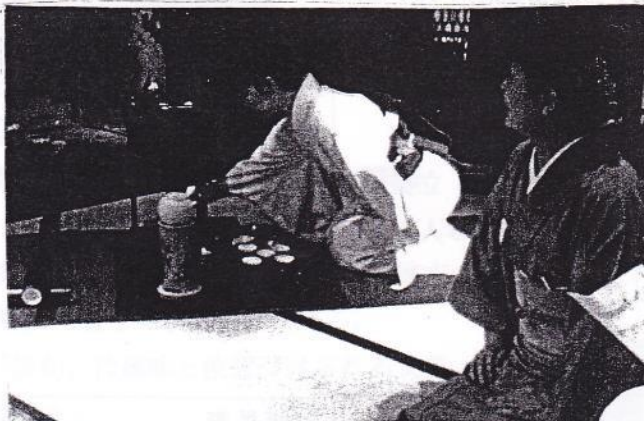
☆煎茶の飲み方と作法

1、お茶の頂き方と一煎目について

- ①茶碗が乗った茶托を右手で持ち膝前へ取り込みます。
 - ②茶碗を乗せた茶托を右手で持ち、左手の平に茶托のをせます。
 - ③右手で茶碗を取り上げ、お茶の色と香りを味わいます。
 - ④茶托左手の平に乗せたまま左膝に下げます。
 - ⑤お茶は幾口で飲んでもよく、十分に味わいながら飲みます。
 - ⑥飲み終わった茶碗は茶托に乗せて自分の膝前に置きます。
- ※一煎目は馥郁たる香りとコクと甘みのある豊かな味わいを楽しみます。

2、お菓子の頂き方と二煎目について

- ①「お茶の味」自身を味わうためにお菓子は一煎目の後に頂きます。
- ②二煎目も一煎目と同様に飲みます。
- ③飲み終わった茶碗を茶托に乗せ自分の膝前に置き、一同挨拶をして終わります。



※二煎目では爽やかな香りとはのかな渋味・苦味のあるさっぱりとした味で、お菓子の甘みを調和します。

※煎茶の特徴は、茶葉は健康を考え二煎目までとします。

※二煎目の味わいを生かすコツは、一煎目を最後の一滴まで絞り切ることで、同じ茶葉を使いながら、一煎目と違った味の二煎目がでるところが煎茶の妙味です。

☆煎茶道方円流のあゆみ

「水随方円器人依善悪友」と言うモットーから「方円流」を創立、煎茶道を通じて自由の精神、互譲と和の心を指導理念とし、日常生活の中に煎茶道のもつ合理性とその精神を研究指導しております。

※「煎茶講座」如何でしたか。☆「煎茶と飲み方と作法」を何度か読んでみると、ご理解いただけたと思います。どうぞご家庭でお楽しみください。



異国文化を学ぶ（中国を旅して）

西田 實

私の娘が上海在住ということもあり、夫婦で年に1回は中国に（上海を中心にして）旅行をしています。中国では日本とは大きく異なる点や、昔の日本との共通点など、多くの発見がありました。まず驚かされるのは、タクシーや公共交通機関の運賃の安いことです。

日本だと1万円程度かかるタクシー代が1,500円位のイメージで、気軽にタクシーを利用することができます。勿論バスや地下鉄も20円～50円程度で、私たちが子供の時の運賃と同じような感じです。更に驚いたことは、日本とは交通ルールが異なり、道を横断する時は、車の切れ目を見て横断します。したがって、往来の激しい道路では、道の中央まで横断して待機し、そこで反対車線の車がなくなる合間を見て渡るのが通常の横断方法です。

逆に、横断歩道がある場所でも、人が優先ではないので、青信号でも車が入ってきます（交通法規も右折車は信号が赤でも進んで良い）このような横断ができないと、中国では生活（観光）できません。



また、中国では高齢者（目上の人）と子供（幼児）を非常に大切にします。老人や子供連れを見ると、必ず席を譲り、（交通機関にシルバーシートはない）若い男性、女性でも子供をあやしたりします。そして親を大切にしています。子供は親の面倒をみる考えが、多くの人の基本となっています。日本では子供の都合や顔いろを伺い、親が成人した息子の面倒を見ているようなケースも見られますが、一昔前の日本の良いところが残っていることを痛感しました。

食事や宴会での習慣の違いでは、客人をもてなす場合は、食事が余るほど提供する習慣があります。この習慣を知らないで、宴席（レストラン）で出された料理を全部食べた為に、直ぐにお変わりが出てきて困ったことがあります。

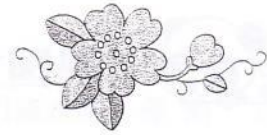
またお酒を飲む場合は、1回1回相手に合わせて、乾杯の声掛けをして飲むのがルールです。これに慣れていないため、勝手に自分だけ飲んでしまい、気まずい思いをしたことがありました。特に、中国の焼酎にあたる白酒はアルコール度が40%と高いのですが、非常に風味がある飲みやすいお酒ですので、飲み過ぎに注意しなければなりません。

最近ではPM2.5等の大気汚染や工場からの公害物質の垂れ流しなど、健康に関わる重大な問題も報告されていますが、これも水俣病や四日市喘息等、企業優先の政策で、国民に重大な健康被害を与えてきた、過去の日本の状況と酷似しているように思いました。

最近では、食の安全や尖閣問題などから中国に対する風当たりが強くなっていますが、現在の中国の実情をよく見てみると、我々日本人が考えなければならない多くの課題を提起しているように思いました。



まなびすと市民講座情報



※平方東市民講座

☆シャルウィダンス＝講師 上原 愛子 先生（実施日：7/26・8/23）

今回は、7月26日（土）平方東小学校音楽室です。最高に暑く、湿度も高い特別の日でした。それにも負けず、受講者は、午後1時30分前に、男女各4名、8名の方が集合しました。シニアの方々です。自己紹介の後、汗も引かぬうちに、始めにジルバ、スロースロー・クイック クイック手足が上手く動きません。何度も繰り返していくうちに、だんだんコツを飲みこんできました。にこにこ笑顔がふえます。

音楽に合わせて、踊れて嬉しそう。ワルツもチョット触りだけ、何もかも忘れてアットという間の楽しい時間でした。



※芝川市民講座

☆着付け＝講師 久野 清子 先生（実施日：7/26）



初めての着付け、浴衣に半幅帯を使って、一人で着付けを学習させる。「よろしくお願ひします。」と意欲ある女性達。

真夏の講座室に冷房がある。

和室での講座は快適であった。

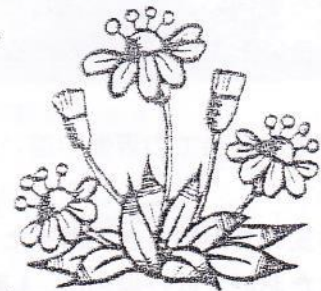
（鏡があるとよかったが）練習しましょう。

「緊張するわ」「着くずれしないように」「自分で帯が結べるように」・・・（着付けてもらうと、3,000円～5,000円位する）時間内に何回も練習。着付けが終わり、時間も少なくなり、桐ダンスにしようたため方。学んだ人達から「有難うございました」との声。

「上手に出来るようになりました。」

「気をつけてお帰り。」

「さようなら。」



※富士見市民講座

☆シニアから始める俳句＝講師 清水 山彦 先生（実施日：7/26・8/23）

講座点描は「日記俳句のすすめ」。主旨が明白なだけに、参加者からの疑問や質問は適切で、しかも多彩。しっかりこちらの眼を見て発言する姿に、遣る気が伝わってくる。

「俳句」は趣味と位置づけられる文芸ではない。

初歩としての嗜（たしなみ）はやがて、詩人・俳人としての気概を持つようになる。俳句はやる程に奥が深い。

参加者の多くはシニア世代だ。今日のシニア世代には、そうした資質があるように思われる。



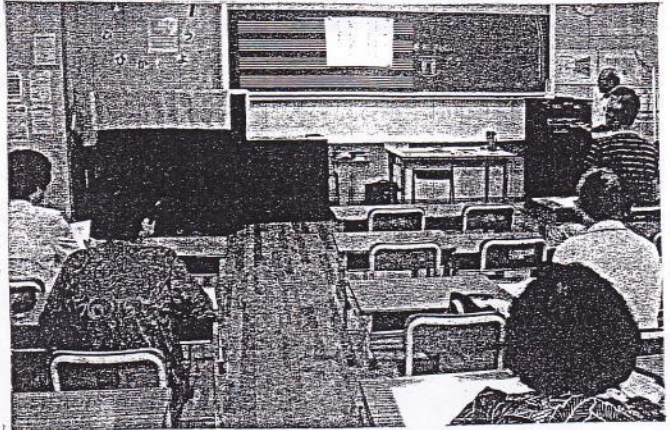


☆詩吟＝講師 桜井 神公 先生（ 実施日：7/26・8/23 ）

漢詩に興味のある方、詩吟の初歩を学びたい方を対象として、「詩吟講座」を富士見小にて開催。初回は7月26日に実施。詩吟は、平安時代に中国より伝来した漢詩に節をつけて朗読したのが、そもそもの始まりで、およそ1,300年の歴史を持つ。最初に漢詩の種類、漢詩の校正、詩吟の音階等、詩吟の基礎知識の概要を学び、早口言葉で舌を滑らかにした後、各自それぞれの声にて、大きな声で「ヤッホー」発声すること5回。

また、母音と子音の発生のしかたを学んだ後、最後に吟詠指導。今様歌「色は匂へど」と「川中島」を一句ずつ反復すること3回。これにて一回目の講座終了。

8月23日、腹式呼吸法の習熟をメインに詩吟に関する逸話と詩吟の効能等を行う。



☆仏像彫刻入門講座＝講師 宮澤 慈慶 先生（ 実施日7/26・8/23・9/27（予定））

救世観音を彫る。地藏面の体験された方を対象に、初めての立体像に挑戦して頂いています。時間を惜しむため角材に下図を描き、ノコ目を入れて準備しました。彫刻刀の入れ方を実演、輪郭から彫刻開始。



個人指導で初日終了。2回目は全体の形を整え、最終回で、顔と台座を彫り出して完成。出来栄が楽しみです。

彫刻は難しいと言われていますが、立体感、バランス感覚は、何方も経験から備わっているものです。

初めての立体像講座でしたが、真剣に取り組まれていました。多くの方に究極の生涯学習として、貴重な時間を過ごして頂ければと思っています。

☆手話＝講師 助川 久美子 先生（ 8/24・9/7（予定））

予定していた第1回目の講座日（8/10）が、台風接近のために8/24に延期になり、受講者の皆さんには申し訳なく思いました。私も皆さんに早くお会いしたいと、心づもりをしていたので、自然現象では仕方がないと解りながら残念でした。

皆さん手話に関心を持って、私の話しを真剣に聞いてくださり、本当に嬉しく思っています。「手話は一つのことばとして、認められています。」「手話は耳の聞こえない人のことばです。」学校でも「手話」の指導をしていると伺っています。「手話」ができると大勢の人と会話ができ、楽しく人生が過ごせると思いませんか。皆さんも手話を学んで、手話の指導者として、頑張ってくださいと言いますと、皆さん頷いていました。



手話



ご苦労さま



ありがとう

NHK連続テレビ小説「花子とアン」の舞台となったプリンス・エドワード島

小説「赤毛のアン Anne of GreenGables

ルーシー・モード・モンゴメリ作

小説「赤毛のアン」発表100周年記念ツアー参加

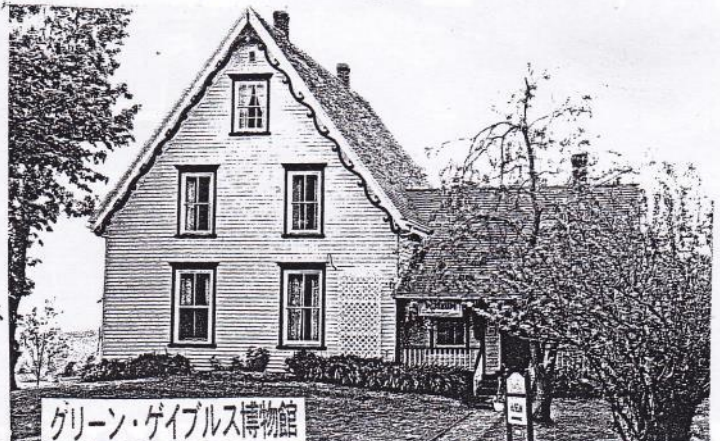
(平成20年6月13日～18日)

村山 行雄

舞台となったカナダ・プリンス・エドワード島は、セントローレンス湾に浮かぶ小さな島で(四国の1/3位)である。アンが暮らすアヴォンリー村のモデルとなったキャベンデツシユ周辺には、物語に描かれた場所が幾つも存在する。プリンス・エドワード島は「赤毛のアン」に関連のある町がある、クイーンズ地区を中心に、西側をプリンス地区、東側をキングス地区と呼ばれている。



「赤毛のアン」の作者モンゴメリは、農場主で郵便局を営んでいた祖父母の家で生活し、祖父の死後、祖母が亡くなる迄の3年間、郵便業務を引き継ぎ、その傍ら原稿を書いていた。現在そのグリーン・ゲイブルス郵便局は、当時の郵便局の様子がわかる博物館になっていて、「赤毛のアン」の出版が決まった、1908年当時の日記や、100年前の絵ハガキ・アンの切手が展示されている。



夏季には、今でも郵便局の業務も行っており、ここから出した郵便物には、グリーン・ゲイブルスの消印が押される。その他の見どころ、グリーン・ゲイブルス博物館(モンゴメリの叔母さんの家で、現在もキャンベル家の人達が暮らしている。モンゴメリのお気に入りの家です。)グリーン・ゲイブルス(赤毛のアンの家)モデルとなった家は、1937年国定史跡に指定されている。

☆ 表紙紹介

皆さん、上尾市の花火をご覧になりましたか。近年の花火制作技術はすばらしく、色彩豊で繊細で、スターメインや十号玉・音楽花火等々、大勢の観客を魅了しました。

その感動を根本京子さん(水墨画講師)が、墨絵で表現してくださいました。根本さんは、ご自宅の3階から描いたそうです。(超特別席ですね)

☆ 編集後記

◎ 今年も猛暑・洪水などが続き犠牲者が出て大変でした。...

皆さんご健勝で、公私共にご活躍だったことと拝察申し上げます。

◎ 九月十七日、ニッサンUDクラブにて、事業説明会・研修会①、研修会②を開催します。会員の方は、万障繰り合わせご参加下さい。

◎ ミニ講座として「煎茶講座」を企画しました。(☆煎茶の飲み方と作法)をご覧ください。

◎ 市民講座の写真は、土井会長提供です。そして「まなびすと通信」四十四号発行協力者、高木さん・鈴木さんです。皆さんに感謝。

◎ 皆さんからの原稿をお待ちしています。ご自分で「教室」を新しく開設された等、身近にあったこと等を左記にお知らせください。

◎ TEL/FAX 共通

048-786-1965

森田千枝子